

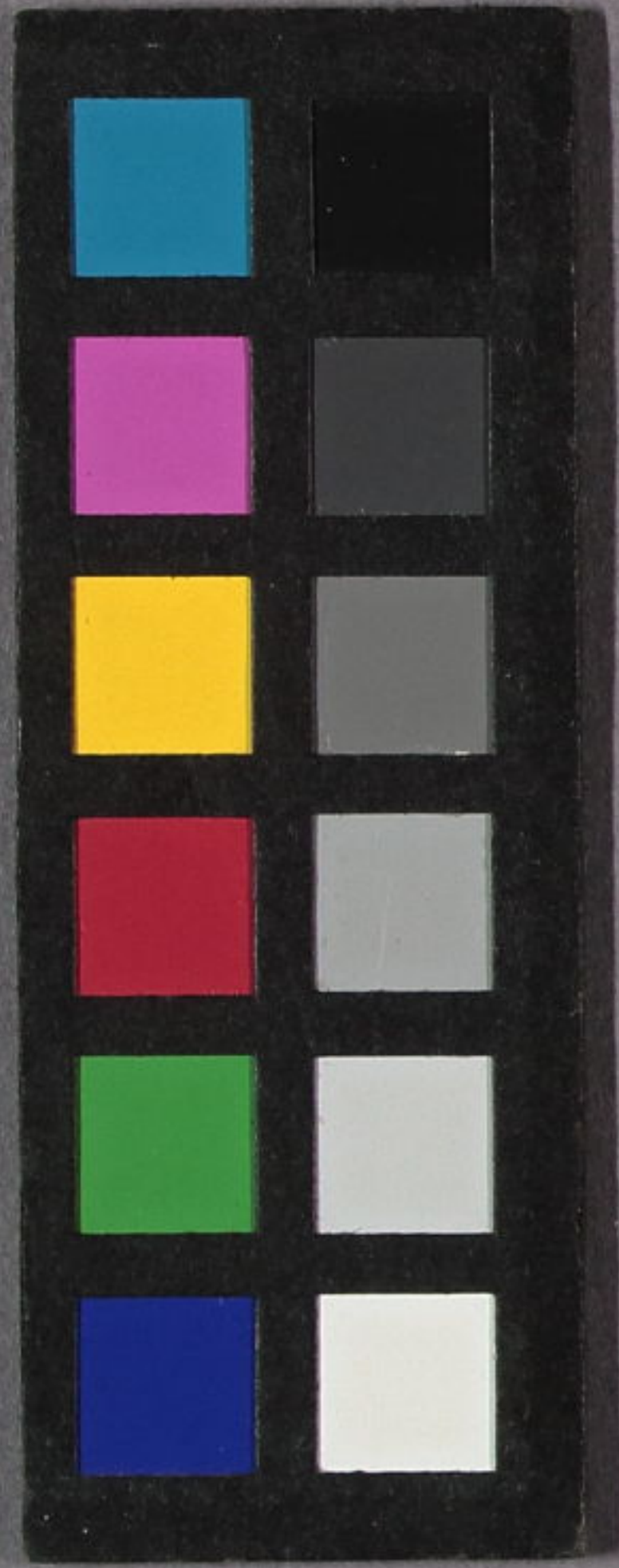
縁結月下菊

五

13

460

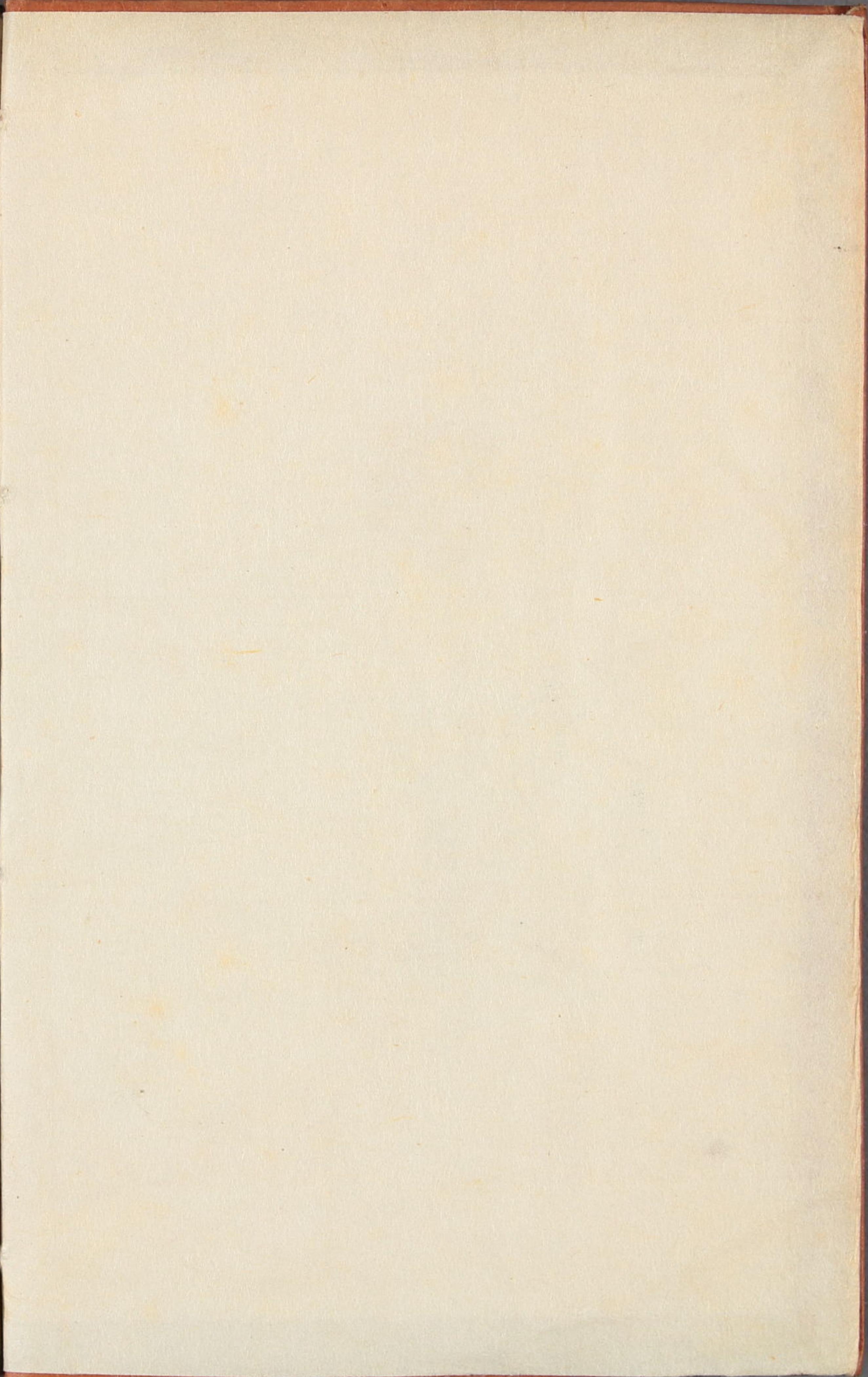
5



海法月書

五

13
460
5



遠門
460
卷

このまじりていふまじりたるは後のかひより法十并
お夏をあらひておせう入る幸助のまじりたるを

「まそれづく。駕籠のうへお

のせあましまし〜いさぎよう他ま〜かかけ〜かん舞の

みみ入らわりのうゑおんあ〜い〜。お菊さぞびつらうのま

らうの ト左右方女をさうかく 女中のお名のお菊さまハテは

十并招とありまわりのまじり〜但るまの且邪招と

ハイさめろ。お水の名を幸助とえとよびるま〜い〜

お夏とえんごひまをらうぞろ〜い〜他〜かかけお結納と

これ〜い〜ひも是で結納ま〜い〜幸助様とよびま〜い〜

家ノ...

十 素内（すねい）の私（ひり）もさふぬ。お菊（きく）さふりといふに、はなはたしめは、眞部（まべ）振（ふり）どしは、ありけれ
 まうじる（まうじる）、ト（と）まうじる（まうじる）。○その次の朝（あさ）、但馬（たじま）の島（しま）代（しろ）を急（いそ）ぎかゝり
 かりけ事（こと）、沢（たく）告（つげ）知（ち）をせむは、さかきまをさし、まをさし、どめをわすれ、おはなはた
 おりさきべりといふをせられ、さふらぶ、まがけ、方（かた）を、評（ひやう）後（ご）のうへ
 ちて、まゐらんと、こ三日（さんびつ）のあむ、さうり、其（その）お（お）女（め）ざら、り、別（わか）れ、まがけ
 たるれば、お菊（きく）お夏（なつ）のむらさき、く、風（ふう）呂（りょ）も、り、さ、よ、お（お）賢（けん）も、対（たい）と
 更（さら）お苦（くる）勞（らう）の、む、さ、い、ま、は、る、り、其（その）お（お）家（け）考（かう）る、お（お）菊（きく）の、標（ひょう）、知（ち）、お（お）育（よく）
 くれ、さ、う、へ、り、む、つ、ら、む、さ、も、お（お）夏（なつ）の、年（とし）、さ、う、浮（うき）世（よ）、お（お）馴（な）れ、さ、の、さ、う

さ、ま、う、ら、ち、さ、か、く、る、り、も、く、も、縁（えん）、さ、ん、と、ひ、た、さ、る、り、べ、た、け、い、ま、の
 る、さ、を、推（おし）、と、く、と、お（お）菊（きく）も、か、さ、ら、ひ、お、さ、ら、さ、る、り、べ、い、信
 十、お、ら、る、り、さ、さ、さ、う、り、あ、て、日（ひ）、毎（まい）、日（にち）、を、か、け、め、ら、け、け、所（ところ）、へ、ら、う、の、が、彼（あそ）、ら、か、
 こ、ろ、の、と、大（だい）、工（こう）、左（ざ）、官（くわん）、知（ち）、さ、び、り、存（ぞん）、と、昔（むかし）、後（ご）、の、往（わう）、文（ぶん）、さ、ま、う、つ、ら、り、後（ご）
 妻（つま）、助（すけ）、の、さ、さ、の、毒（どく）、さ、す、未（み）、徒（と）、定（ぢやう）、終（しやう）、と、さ、日（ひ）、を、あ、ら、の、ぬ、い、と、何（なん）、と、
 砂（すな）、さ、し、ら、ま、い、こ、り、但（た）、馬（ば）、の、母（ぼ）、お、ち、ら、あ、て、面（めん）、會（かい）、さ、る、と、あ、ら、ぶ、は、
 か、ま、り、の、換（か）、授（じゆ）、を、さ、し、り、その、後（あと）、へ、お、不（ふ）、何（なん）、の、面（めん）、目（め）、さ、く、牌（はい）、さ、
 さ、さ、さ、さ、で、否（いや）、娘（むすめ）、め、が、不（ふ）、持（もち）、也（なり）、と、何（なん）、と、中（ちゆう）、う、ら、る、り、さ、ま、を、さ、ら、ひ、さ、さ、さ、
 表（あ）、の、下（か）、下（か）、下（か）
 〇十一

表の下の下

ゐれば次のおふり入りの男まうり出「おの疾病と申して
も代ごのどいづのままでトらうる病兵「手先だつてまづごきんおはつて
をまづおあひのどいづのへうおあむえぬされまうて先は機嫌さう。
さてけ後の儀つりますまうて支配人ごもお供おあひおはして下通う
おちるやーやとあげませうおあむかひませむは遠慮なく
是非言をある様のお血筋にお夏様さうするれおあむかひ
ぬされませうとも出家があひとむらうそれおあむかひ入店約定と
やうにお夏様さうは頂お菊へお出がうらうらうまうて物て

おあむかひまうてまうてまうてそれへて置まうて婚禮と葬礼の式
法へおあむかひ事でおあむかひ家方でおあむかひ地獄斗目娘へおあむかひ
後におあむかひ興を昇おあむかひ門火おあむかひ持ておあむかひ幕でたうくと
たまにおあむかひ只おあむかひ跡おあむかひの紙おあむかひもぬらうり。おあむかひ
あもおあむかひ内葬おあむかひの内葬の後でらまうておあむかひ吊ひおあむかひ
まもおあむかひ入まうて棺の内へおあむかひ戒名おあむかひを記られまうて送るまうて
例おあむかひひまうておあむかひ室婚礼の序おあむかひむむびがうらうらうおあむかひ
まもおあむかひ衣履おあむかひの外儀道具へおあむかひ老の通へおあむかひまうて

おあむかひ

おあむかひ

あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに

且那の娘みよはあまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに
あまの御心あまのこころをいひまゝに

あまの御心

月満男子を産か菊酒彦のち兼兼助夫婦あつるふよりおこる商ひ
日あくた繁昌しげしく富貴小栄こぞ一おりまままてままま加賀か
彦やあのこりたと物ぶ悟ごるべき事もる一第一回の目録ろが
つどどで送る娘名なと假字お書くるの巻ま尾びの趣向きをままり
最初さいしよ小お私わのめうてあまてるあり
をうらればそれよあらふ又後世の
物の附きまの所から知る事あり
改て從言の加賀彦とあるがままるればさらく云と是の事
して法ほ十十身ま衣い日に更あものいままを常ね日ももも徳ちをひきうけて

○こゝ但馬彦つしまあてち菊へち夏なつと名を

提ち原げん孫まろ父ちち孫まろ其その他ほかちちあらき序出で入いる事の事提ち原げん孫まろの事
おうらめぐる事をしげくる原來らい氣きがる口くちがるるをしき男おとこがお
あらればそれくの掛りの者ものもまは法十十身まの是負いてままり
但つ馬ま彦まろもも但つる彦何なんの事もないにいつたれば何の事もない
清きよららとは是は我われの幼少せうをしてままり
其その書しよ画がの自分ぶんの月利り小こ同どう物ぶつの誰孫まろ何なんの事もない
其その代しろのちろろ人ひとを見てままり
をとりてちろろの事ことをしられば未商あやまひのその他ほか小こ徳とくの事もない

月満

月満

事ありくは夏と中の睦まじく遊甲の配さう事あり
されば彼を根船うう今の夏をさうあましく見公をさう
のこみあゝど母の里の子るを愛我身常うあましく
加多屋へ脱入させん道はあましく已彼ふれそひて身をさめち
かてあ今まどの思あつるふ母の心をさめあへんめのもらひまう
さうは時小瀬まうて威むる者さうあましく又具年の秋と
やらん嵐をびくく徳倉の町へ更まうる公は三吹あはれさう
事ありきふうて破損のつらひ又ハ新お建るをさう緒

方の普信一時的の枝本且く引くむは時お清十舟の例
の公愛をうちめぐる若枝本は入用おゆを何程さうと取
ふまへておびんとひられどお掛りの人々事感のさうと
ひひあつる見見負の清千糸何方おても幸のとも思ひく
弾後のお入るまそれくお程さあのかとまのゆとて
事大違り但る公の支配人いと不審とよあましく
ざり者三四人清千糸があふ出ハ是後そのあましく
序の店おもむいんもあましくいんがむかひも買入の入

最の...

二三

まほしき母のつぐ口今まで取あつてひびかせぬは我々のつぐれ
うらむる母のつぐ口もねむるもその故不安なるは肩をたたく
舞ひ 一おれが二夜目も身つけを 一化粧坂の花井筒をたけ浦と
ひふ女帯のる信州で名ふきいそし十千丸をとりふか限のりぞ
一昨年國から出しつらうが所へきてあつたから十も丸をたけ
かゆく身つけの金を倍おせうからちかちか入つたれまのり人を
たのびつていそしつた浦をたけいそしつたつらうがりつらうが
ねつとつらふ今の女帯へ利口をたけいそしつたつらうがりつらうが

遣入やうる指もこころをばもちか入つたつらうがりつらうが
造様とつらふかも知らんけつらうがりつらうがりつらうが
車つらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが
つらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが
持せせつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが
増金をつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが
つらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが
十も丸をたけいそしつたつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが

三浦のつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが

つらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうがりつらうが

身み帯おびにまりての金かねをかねのし知しれし案あんの
定さだめられしての便べん感かんをからしめし又またちましつ持もてしるに
さしらりての使つかひの方かたをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
筋すぢの飛脚ひきゃくでのちましつまさるの時ときにの附つきを金かねをからしめし
いまもちんの満まん足ぜきといふにもちんの金かねをからしめし
いまもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
うまもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
はななしいまもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり

船ふね都と合がの入用りようの便感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
找さう本ほんの入用りようをまもりての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
おまもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
ままもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
いまもちんの金かねをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
ちちましつの便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり
飛ひ脚きゃくをからしめしての便べん感かんをからしめしての找さう本ほんの入用りようをまもり

飛脚の便感

〇二五八

中^{ナカ}の^ノ入^イ用^{ヨウ}を^ヲ十^{ジュウ}か^カも^モの^ノ入^イられ^レび^ビの^ノみ^ミく^ク首^{ウタ}尾^ビよ^ヨう^ウの^ノ被^ヒて
徳^{トク}勅^{トク}定^{テイ}を^ヲま^マつ^ツり^リく^クその^ノ徳^{トク}が^ノ最^{サイ}多^タ一^{イツ}金^{キン}を^ヲ使^シあ^アふ
積^{ツキ}あ^アげ^ゲ程^{テイ}の^ノ酒^{サウ}宴^{エン}の^ノ存^{ゾン}の^ノ旨^チの^ノ父^フの^ノ画^ガ像^{ゾウ}を^ヲ掛^ケあ^アま^マす
ま^マつ^ツり^リの^ノ母^ボ。次^{ツギ}に^ニ。法^{ホウ}十^{ジュウ}年^{ネン}支^シ輝^キその^ノ化^カ一^{イツ}表^{ヒョウ}一^{イツ}門^{モン}居^ク
る^ルれ^レく^ク支^シ配^{ハイ}人^{ニン}の^ノ代^{ダイ}も^モ皆^{ミナ}も^モび^ビい^イて^テけ^ケ度^{タク}あ^アま^マす
平^{ヘイ}生^{セイ}骨^{ボネ}お^オく^ク勅^{トク}の^ノ工^{コウ}を^ヲあ^アら^ラく^ク養^{ヤウ}を^ヲれ^レく^ク毎^{マイ}日^{ニチ}を^ヲま^マす
な^ナれ^レば^バ母^ボの^ノひ^ヒま^マを^ヲ機^キ嫌^{ケン}く^ク「ひ^ヒま^マを^ヲく^ク私^シの^ノ心^{ココロ}を^ヲ義^ギ理^リ
だ^ダて^テま^マす^スも^モ程^{テイ}あ^アら^ラぬ^ヌの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}若^{ニホ}且^ツ那^ニふ

つ^ツ後^ゴも^モ妻^{イメ}見^ミを^ヲあ^アら^ラぬ^ヌの^ノ育^{イク}や^ヤう^ウが^ガ弟^{テイ}一^{イツ}日^{ニチ}の^ノ十^{ジュウ}番^{バン}給^{キム}ふ
お^オの^ノ廿^ニ日^{ニチ}で^デ茶^{チャ}の^ノた^タい^イの^ノ毎^{マイ}日^{ニチ}の^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
唐^{カラ}振^フぐ^グひ^ヒま^マを^ヲあ^アら^ラぬ^ヌの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
の^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
後^ゴが^ガ陰^{イン}を^ヲあ^アら^ラぬ^ヌの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
その^ノ肝^{カン}心^{シン}の^ノ士^シ卒^{ソツ}の^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
提^{テイ}養^{ヤウ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス
ま^マつ^ツり^リの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^スの^ノ心^{ココロ}を^ヲま^マす^ス

提養をま

提養をま

お父其^{おぢ}をこそそれくのお^{おひて}あはれが後^かあり其^ど石^{いし}の海^{うみ}
はさぎと負^{まか}る小骨^{こぼね}をさるかうとち^ち船^{ふね}しておを安^{やす}りから^か商^{あきな}
賣^うちぶひの今^{いま}度の事^{こと}もありま^まりつひて采^{さい}幣^{へい}がよ
からえぬれその^{その}海^{うみ}うごひあ^あも^も十^{じゅう}番^{ばん}盤^{ばん}をやめて
女^に年^{ねん}を借^かうご^ごとん^んふま^まうけてくれぬか^かい^い一^{いち}時^じの
ころ^{ころ}い^いころの海^{うみ}言^ごをい^い一^{いち}者^{もの}のけ^けな^なふ^ふあ^あの^の面^{めん}目^め
ふ^ふと^と親^{おや}も^も親^{おや}る^るふ^ふも^もふ^ふる^ると^と是^{これ}その^{その}心^{こころ}の^の足^{あし}踏^ふる^る
よ^よう^う程^{ほど}ふ^ふ今^{いま}ま^まで^で人^{ひと}目^めも^も掛^かざ^ざり^りは^は供^{たね}衆^{しゅう}よろ^{よろ}も^も懸^か組^{ぐみ}馬^ば

少^{せう}人^{にん}出入^{でいり}をい^いひ^ひつ^つけ^け上^う下^げ相^あ儀^ぎの^のい^いで^でき^き物^{もの}忌^い余^あ程^{ほど}あり
られ^{られ}ハ^ハ三^{さん}中^{ちゆう}傘^{かさ}雪^{ゆき}を^をれ^れ行^ゆ大^{だい}海^{かい}流^{りゅう}ハ^ハ安^{やす}田^{でん}様^{やう}を^を一^{いち}流^{りゅう}ふ
ま^まう^う日^ひと^と知^ちる^る度^ど毎^{まい}ふ^ふえ^え久^{ひさ}引^ひ久^{ひさ}清^{せい}千^{せん}年^{ねん}の^のい^いそ^そじ^じい
い^いそ^そが^が一^{いち}られ^{られ}バ^バ自^{おのづから}然^ら推^{おし}び^びあり^{あり}く^く暇^{ひま}も^もあ^あ一^{いち}これ^{これ}バ^バそ^そ妻^{さい}を^をも
か^かう^うど^どと^と男^{おとこ}ニ^に女^{めづ}を^をま^まう^うけ^け一^{いち}か^かど^どと^とあ^あ夏^{なつ}が^が一^{いち}後^ごあ^あり^り母^{はは}の
い^いそ^そく^く樂^{たのしみ}一^{いち}ま^ま人^{ひと}と^とあ^あり^りて^て世^よを^をさ^さと^とび^びた^たり^りと^とあ^あん

月下菊卷の下大尾

表の巻目下

一三二

東都

東都

柳亭種彦著

歌川國貞画

寺町佛光寺角

河内屋藤四郎

心齋橋筋博労町

河内屋茂兵衛

長者町壹丁目

加賀屋源助版

京都
大阪
江戸

假名佐話文庫

全部 南仙樵楚滿人作
九册 溪齋英泉画

貞婦小笹雪

全部 梅暮里谷我作
七册

磯馴草紙

全部 岩井梅我作
八册 歌川國芳画

女をんな小こ學がく

全部 瀧亭鯉文作
六册 浅草亭梅里画

伊達摸樣錦の桂

全部 松亭金水作
十二册 溪齋英泉画

貞烈美談園乃花

全部 爲永春水作
十六冊 溪齋英泉画

縁結娛色系

全部 松亭金水作
十二冊 歌川國直画

岩井風呂時雨傘

全部 爲永春水作
九冊 溪齋英泉画

松間春

弦月

全部 全
六冊 全
画作

東都書肆

江戸下谷長者町壹丁目
加賀屋源助藏板

新本 未だ 此より ちき

あり

大の 玉を 勢入

んや



